

アジアの伝統芸能 第十一回

# 梁祝故事の変遷



梁祝故事に関する記録は、八世紀初めの唐代にまで遡ることができ、十二世紀初めの北宋時代に書かれた梁聖君廟の由来記には、当時の伝説が詳細に記録されている。

南宋時代、梁祝の悲劇に同情した人々は、新たに「化蝶モチーフ」を生み出し、今日の梁祝故事の原型が完成した。

その後もさまざまな続編が作られた。明代には「還魂モチーフ」、清代には「投胎モチーフ」。越劇も当初は「還魂モチーフ」を採り入れていた。

しかし近代になって自由を求め、若者たちという普遍的なテーマが再評価されると、梁祝故事の原型「

「化蝶モチーフ」が復活した。

現在、梁山伯と祝英台は縁結びの神として人々の信仰を集める一方、二〇〇六年には二人の物語が「第一批国家級非物質文化遺産」（日本の国指定重要無形文化財に相当）に登録された。

# 目次

## 第一節 梁祝故事の起源

梁祝故事に関する記録は8世紀初めの唐代にまで遡ることができる。12世紀初めの北宋時代に書かれた梁聖君廟の由来記には、当時の伝説が詳細に記録されている。

## 第二節 梁祝故事の変遷

南宋時代、梁祝の悲劇に同情した人々は、新たに化蝶モチーフを生み出した。明代には還魂モチーフ、清代には投胎モチーフによる続編が作られた。越劇も当初は還魂モチーフを採用していたが、役者たちの改革によって化蝶モチーフへと回帰した。

## 第三節 梁祝故事の現在

梁祝の二人は縁結びの神として人々の信仰を集める一方、2006年には第一批国家級非物質文化遺産に登録された。

# 第一節 梁祝故事の起源



浙江省寧波

梁祝故事は東晋時代に誕生したと  
伝えられる。

その記録としては、八世紀初めの  
唐代に編まれた地理書『十道四蕃  
志』を初出とする。

その後、十二世紀初めの北宋時代  
に書かれた「義忠王廟記」（浙江省  
寧波にある梁聖君廟の由来記）には、  
当時の伝説が詳細に記録されている。

0	後漢 25-220		
100			
200	魏 220-265	蜀 221-263	吳 222-280
300	晋 265-316		
400	五胡十六国時代	東晋 317-420 ●	
500	北朝 439-589	南朝 420-589	
600	隋 581-619		
700			
800	唐 618-907		
900	五代十国 907-960		
1000	遼	北宋 960-1127	
1100			
1200	金 1115-1234	南宋 1127-1279	
1300	元 1271-1368		
1400			
1500	明 1368-1644		
1600			
1700			
1800	清 1616-1912		
1900			
2000	中華民国 1912-1949 中華人民共和國 1949-		



0	後漢 25-220		
100			
200	魏 220-265	蜀 221-263	吳 222-280
300	晉 265-316		
400	五胡十六国時代	東晉 317-420	
500	北朝 439-589	南朝 420-589	
600	隋 581-619		
700	唐 618-907		
800			
900	五代十国 907-960		
1000	遼	北宋 960-1127	
1100			
1200	金 1115-1234	南宋 1127-1279	
1300	元 1271-1368		
1400			
1500	明 1368-1644		
1600			
1700			
1800	清 1616-1912		
1900			
2000	中華民國 1912-1949	中華人民共和國 1949-	



(唐)梁載言『十道四蕃志』(8世紀初)・梁祝故事最古の記録

# 現存する最古の記録

(唐)梁載言『十道四蕃志』

(南宋)張津『乾道四明図経』所引

〔解説〕

『十道四蕃志』は、唐の中宗時代(西暦七〇五〜七一〇年)の梁載言が著した地理書。道は唐五代の行政単位。宋の大観元年(西暦一一〇七年)、勅命により復刻されたが、その後散逸した。

しかし、(南宋)張津『乾道四明図経』(寧波の地方志)に同書の逸文が引かれており、唐代、この地に祝英台と梁山伯を合葬した塚があったことが知られている。

乾道四明図経

非漢勅題

# 現存する最古の記録

(南宋)張津『乾道四明図経』

義婦塚は、梁山伯と祝英台が合葬された地である。県の西十里の接待院の後ろにあり、いまも廟が残っている。旧記によれば、二人は少年時代、三年もの間、同じ学校で学んだが、梁山伯は初め祝英台が女の子であることに気づかなかつたという。まったく質朴なことである。

按ずるに、『十道四蕃志』\*にいう「義婦祝英台と梁山伯は塚を同じ

くす」とは、飛すなわちこのことであ

る。石猶作人形、上有袈裟文、至今村名塙野、

名烏石、與傳頗異。開寶中僧統贊寧作舍利寶塙記、

其載地中湧出寶塙事亦或不同。若乃塙之神異、備

載于贊寧之記、茲不復詳。

## 冢墓六

忠嘉威烈惠濟廣靈鮑王墳在縣東南三十里

管公明先生墓在縣西四十里聖女山蓋父老相傳云然即無碑碣可考也

義婦冢即梁山伯祝英臺同葬之地也在縣西十里接

乾道十一

美

應嶼樓校本

待院之後有廟存焉舊記謂二人少嘗同學比及三

年而山伯初不知英臺之爲女也其樸質如此按十

道四蕃志云義婦祝英臺與梁山伯同冢即其事也

0	後漢 25-220		
100			
200	魏 220-265	蜀 221-263	吳 222-280
300	晉 265-316		
400	五胡十六国時代	東晉 317-420	
500	北朝 439-589	南朝 420-589	
600	隋 581-619		
700	唐 618-907		
800			
900	五代十国 907-960		
1000	遼	北宋 960-1127 ●	
1100			
1200	金 1115-1234	南宋 1127-1279	
1300	元 1271-1368		
1400			
1500	明 1368-1644		
1600			
1700			
1800	清 1616-1912		
1900			
2000	中華民國 1912-1949 中華人民共和國 1949-		



(宋)李茂誠「義忠王廟記」(12世紀初)・梁聖君廟の由来記

# 梁聖君廟の由来

(宋) 李茂誠 「義忠王廟記」

(清) 聞性道 『康熙鄞縣志』 所収

〔解説〕

浙江省寧波市鄞県高橋に、梁山伯と祝英台を祀った梁聖君廟がある。

この廟の由来を記した(宋)李茂誠\*

「義忠王廟記」には、梁山伯が神として祀られるようになった由来が記されている。

\*李茂誠は北宋の徽宗の大觀年間(一一〇七〜一〇)の知明州事(現在の寧波一帯を治めていた役人)。



## 梁聖君廟の由来

(宋) 李茂誠『義忠王廟記』

神の諱は處仁、字は山伯、姓梁氏、会稽の人である。神の母は夢に日が懷を貫くの見、孕むこと十二箇月、時に東晋の穆帝の永和壬子(西暦三五二年)三月一日に誕生した。

幼くして聡明で、長じて学問を始めるると、とくに墳典(古典)を好んだ。



## 梁聖君廟の由来

(宋) 李茂誠『義忠王廟記』

かつて明師に従うため錢塘江を渡り、道中一人の若者と出逢った。容姿端麗で、書箱を背負い、傘を担いでいた。渡航の際、同じ船に乗ったので、こうたずねた。

「あなたのお名前は」

「姓は祝、名は貞、字は信齋です」

「どちらからいらしたのですか」

「上虞の里からです」

「どちらへ行かれるのですか」

「むこうに師がおられるのです」



## 梁聖君廟の由来

(宋) 李茂誠『義忠王廟記』

じっくり話をしてみると議論にも深みがあり、すばらしい友人を得たと喜んだ。そこで神はいった。

「故郷も近い間柄。私は不才ではございませんが、どうかお近づきなっってくださいませんか」  
こうして楽しく旅を続けた。



# 梁聖君廟の由来

(宋) 李茂誠『義忠王廟記』

学ぶこと三年、祝は両親のことを  
思い、先に帰ることにした。



# 梁聖君廟の由来

(宋) 李茂誠『義忠王廟記』

それから二年して、山伯もまた故郷に帰った。上虞へ行き、信齋を訪ねたが、誰も知るものがない。すると一人の老人が笑っていった。

「わしは知つとるぞ。学問が得意な方といえは、それは祝家の九番目の娘・英台さんじゃろう」

老人の案内で祝英台に会い、ともに詩を作り、酒を飲んで別れた。

山伯はこのとき初めて祝英台が女の子だったと知り、愕然とした。



風節超然

## 梁聖君廟の由来

(宋) 李茂誠『義忠王廟記』

祝英台の屋敷をあとにした後も彼女の清純さを慕い、父母に頼んで結婚を申し込むことにした。

ところが祝英台はすでに鄧城(寧波)の廊頭・馬氏と婚約し、希望を実現することはできなかつた。

神は嘆息していった。

「生きてはまさに侯に封ぜられ、死してはまさに廟食すべし。これしきのこと、何ぞ論ずるに足らんや」



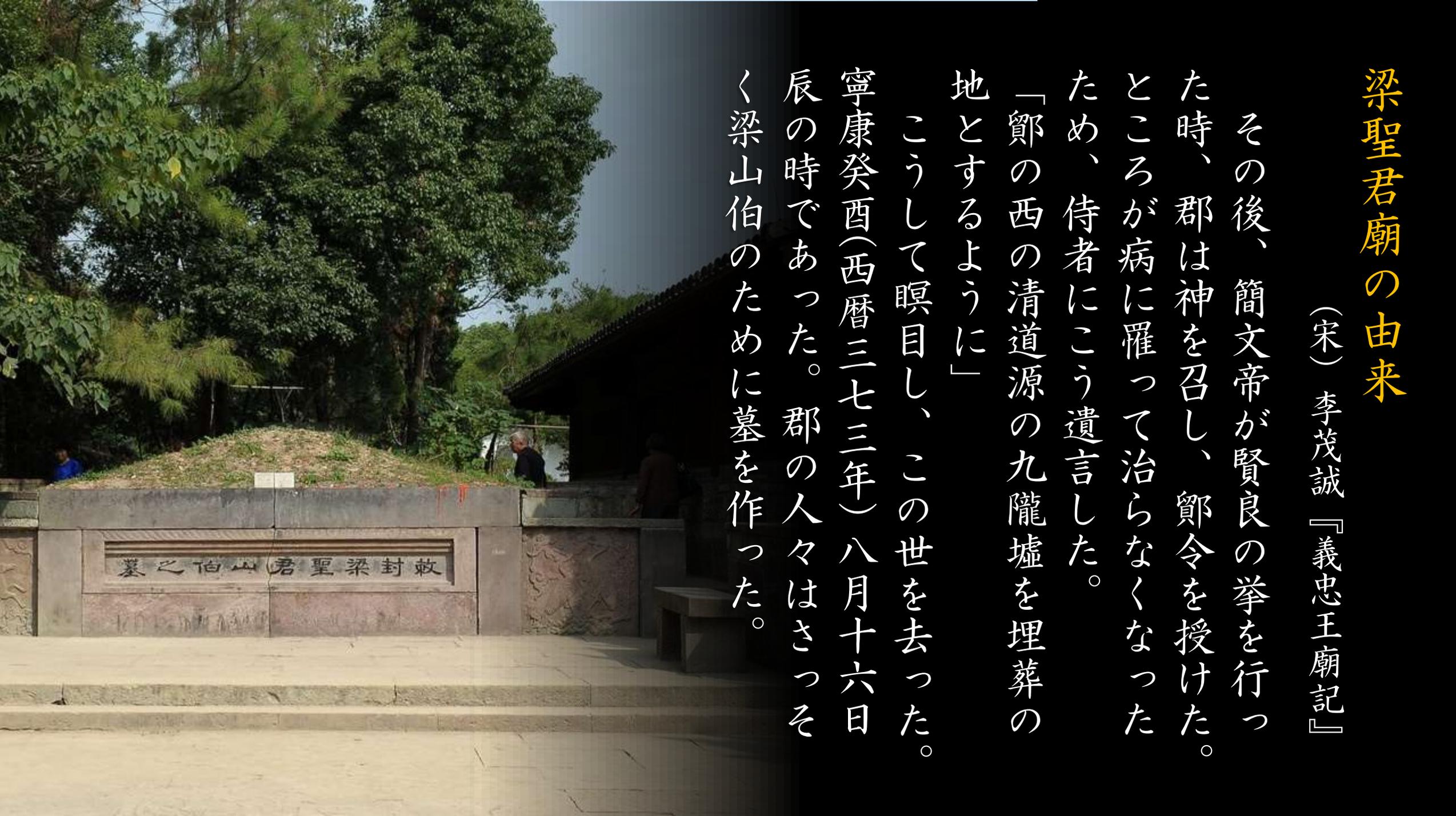
## 梁聖君廟の由来

(宋) 李茂誠『義忠王廟記』

その後、簡文帝が賢良の挙を行った時、郡は神を召し、鄮令を授けた。ところが病に罹って治らなくなったため、侍者にこう遺言した。

「鄮の西の清道源の九隴墟を埋葬の地とするように」

こうして瞑目し、この世を去った。寧康癸酉(西暦三七三年)八月十六日辰の時であった。郡の人々はさっそうく梁山伯のために墓を作った。



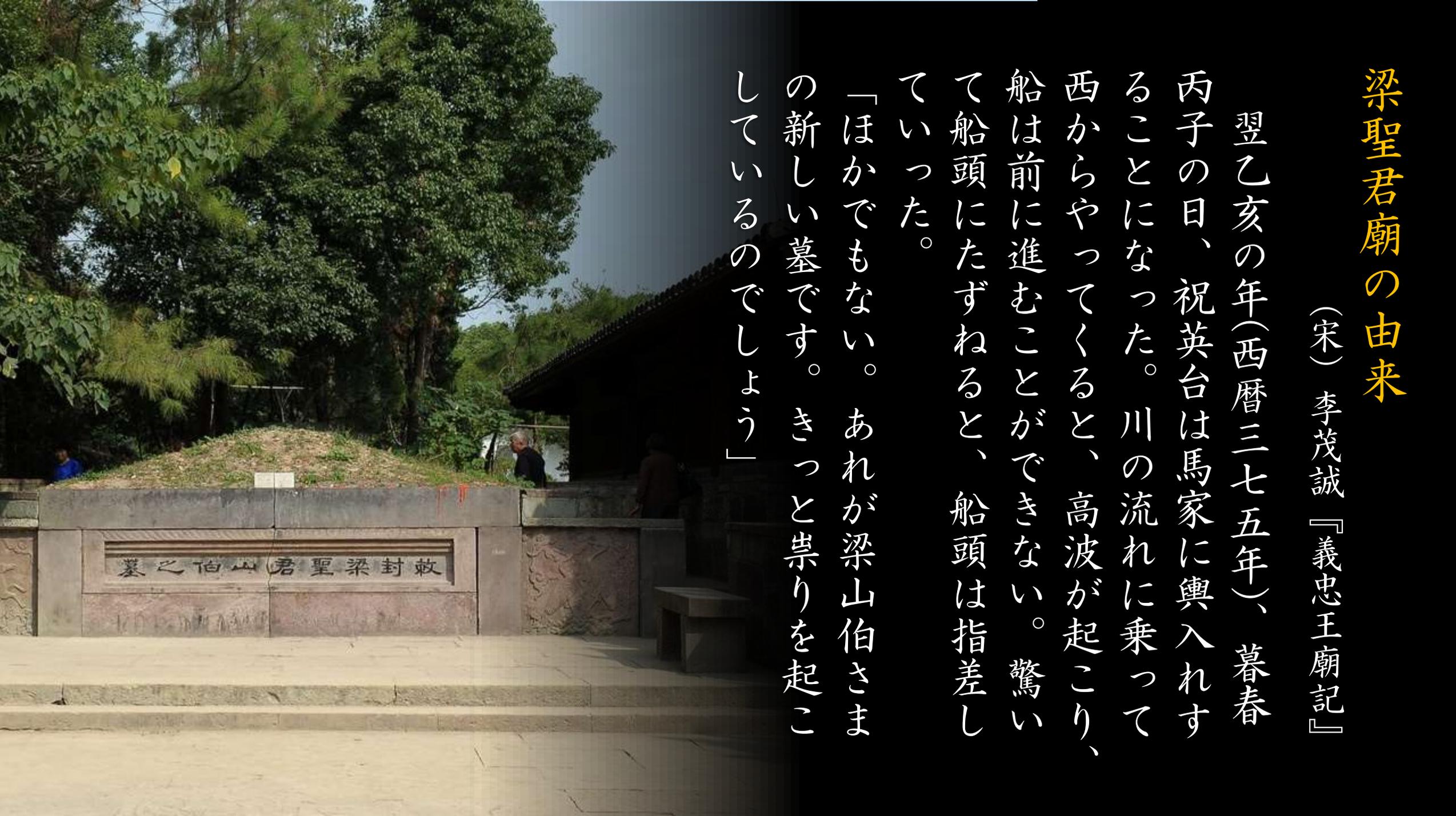
敕封梁聖君梁山伯之墓

## 梁聖君廟の由来

(宋) 李茂誠『義忠王廟記』

翌乙亥の年(西暦三七五年)、暮春丙子の日、祝英台は馬家に輿入れすることになった。川の流れに乗って西からやってくると、高波が起こり、船は前に進むことができな。驚いて船頭にたずねると、船頭は指差していった。

「ほかでもない。あれが梁山伯さまの新しい墓です。きつと祟りを起こしているのですしょう」



## 梁聖君廟の由来

(宋) 李茂誠『義忠王廟記』

祝英台が墓参りに行き、大声で泣くと、地が割け、地中に埋まってしまった。従者たちが驚いてその裾を引くと、破れて雲のように飛び去り、董溪の西嶼に落ちた。馬氏は役人に訴え、墓を暴こうとしたが、大蛇が墓を護っていたためにできなかつた。

郡の役人はこの不思議な出来事を朝廷に上奏した。丞相の謝安はこれを義婦塚に封じるよう進言し、この地に石碑が建てられた。



## 梁聖君廟の由来

(宋) 李茂誠『義忠王廟記』

安帝の丁酉(西暦三九七年)の秋、孫恩が会稽を襲った\*。鄒に及び、妖党は石碑を江に棄てた。

太尉の劉裕が賊軍を討伐した時、神が劉裕を助けようと夢に現れた。

その夜、果たして烽火が煌々と輝き、軍勢が姿を現し、賊軍は海へと逃げていった。

劉裕がこれを上奏すると、帝は神の功績を称え、義忠神聖王に封じ、有司に命じて廟を建てさせた。

\*東晋時代の末、宗教指導者の孫恩が信徒とともに反乱を起し、江南一帯を襲った。劉裕はこれを討伐して戦功を挙げ、やがて衰退した東晋の禅譲を受け、南朝宋の武帝となった。



## 梁聖君廟の由来

(宋) 李茂誠『義忠王廟記』

越(浙江省の古名)に梁王祠があり、西嶼に前後二つの黄裙会稽廟がある。民間ではおよそ早魃や疫病、旅人などに不測の事態が起こると、これに祈るが、大変靈驗あらたかである。



## 梁聖君廟の由来

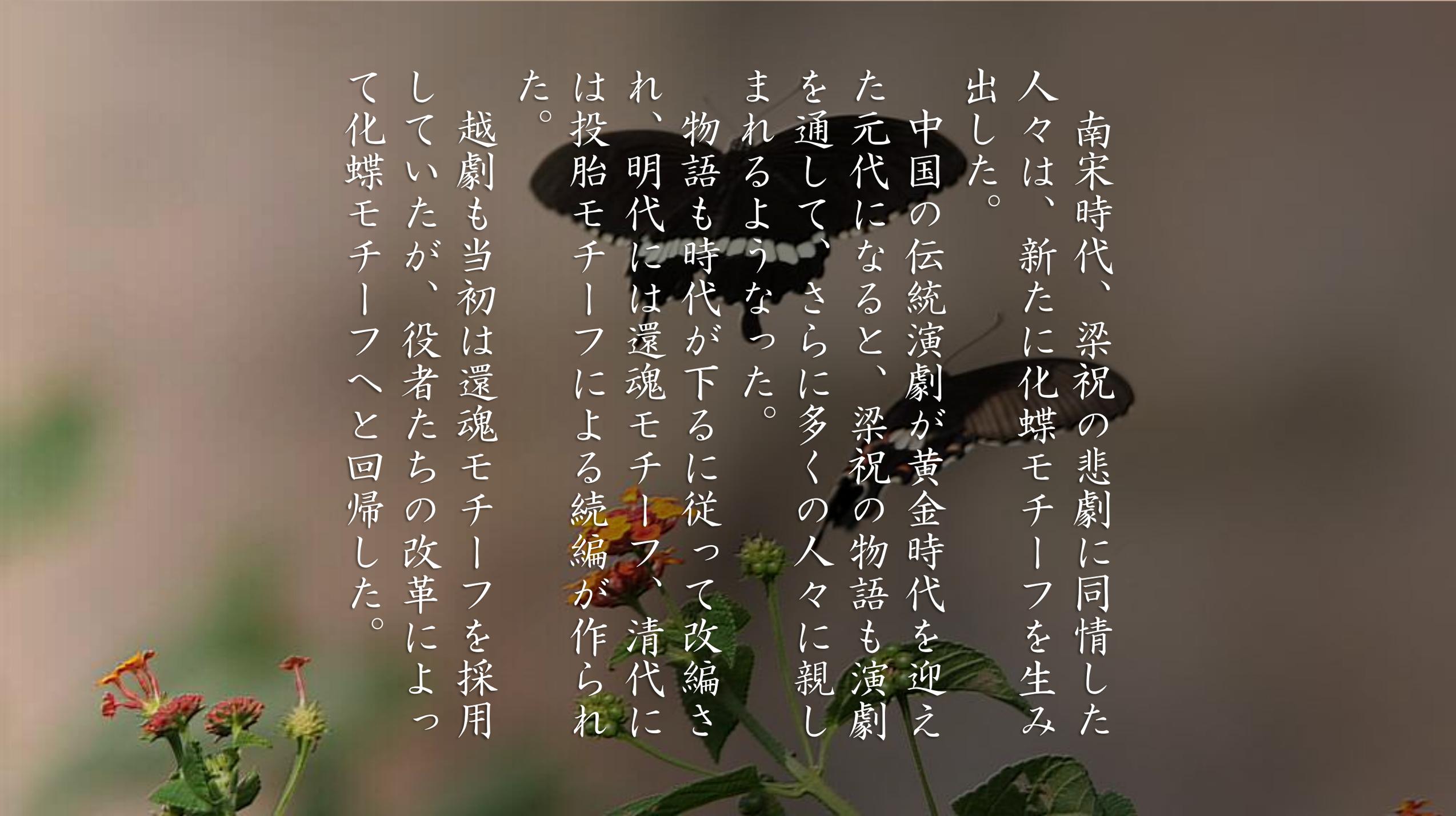
(宋) 李茂誠『義忠王廟記』

宋の大観元年(西暦一一〇七年)季春、勅命により『九域圖誌』と『十道四蕃志』が集められ、事実を考証することができた。

「記」とは記録することをいう。その伝を記録し、ながく後世に伝えたい。



## 第二節 梁祝故事の変遷



南宋時代、梁祝の悲劇に同情した人々は、新たに化蝶モチーフを生み出した。

中国の伝統演劇が黄金時代を迎えた元代になると、梁祝の物語も演劇を通して、さらに多くの人々に親しまれるようになった。

物語も時代が下るに従って改編され、明代には還魂モチーフ、清代には投胎モチーフによる続編が作られた。

越劇も当初は還魂モチーフを採用していたが、役者たちの改革によって化蝶モチーフへと回帰した。

0	後漢 25-220		
100			
200	魏 220-265	蜀 221-263	呉 222-280
300	晋 265-316		
400	五胡十六国時代	東晋 317-420	
500	北朝 439-589	南朝 420-589	
600	隋 581-619		
700	唐 618-907		
800			
900	五代十国 907-960		
1000	遼	北宋 960-1127	
1100			
1200	金 1115-1234	南宋 1127-1279	
1300	元 1271-1368		
1400			
1500	明 1368-1644		
1600			
1700			
1800	清 1616-1912		
1900			
2000	中華民国 1912-1949 中華人民共和国 1949-		

(南宋)史能之『咸淳毗陵志』(1268年)に  
化蝶モチーフが登場



# 化蝶モチーフの誕生

(南宋) 史能之『咸淳毗陵志』巻二七

〔解説〕

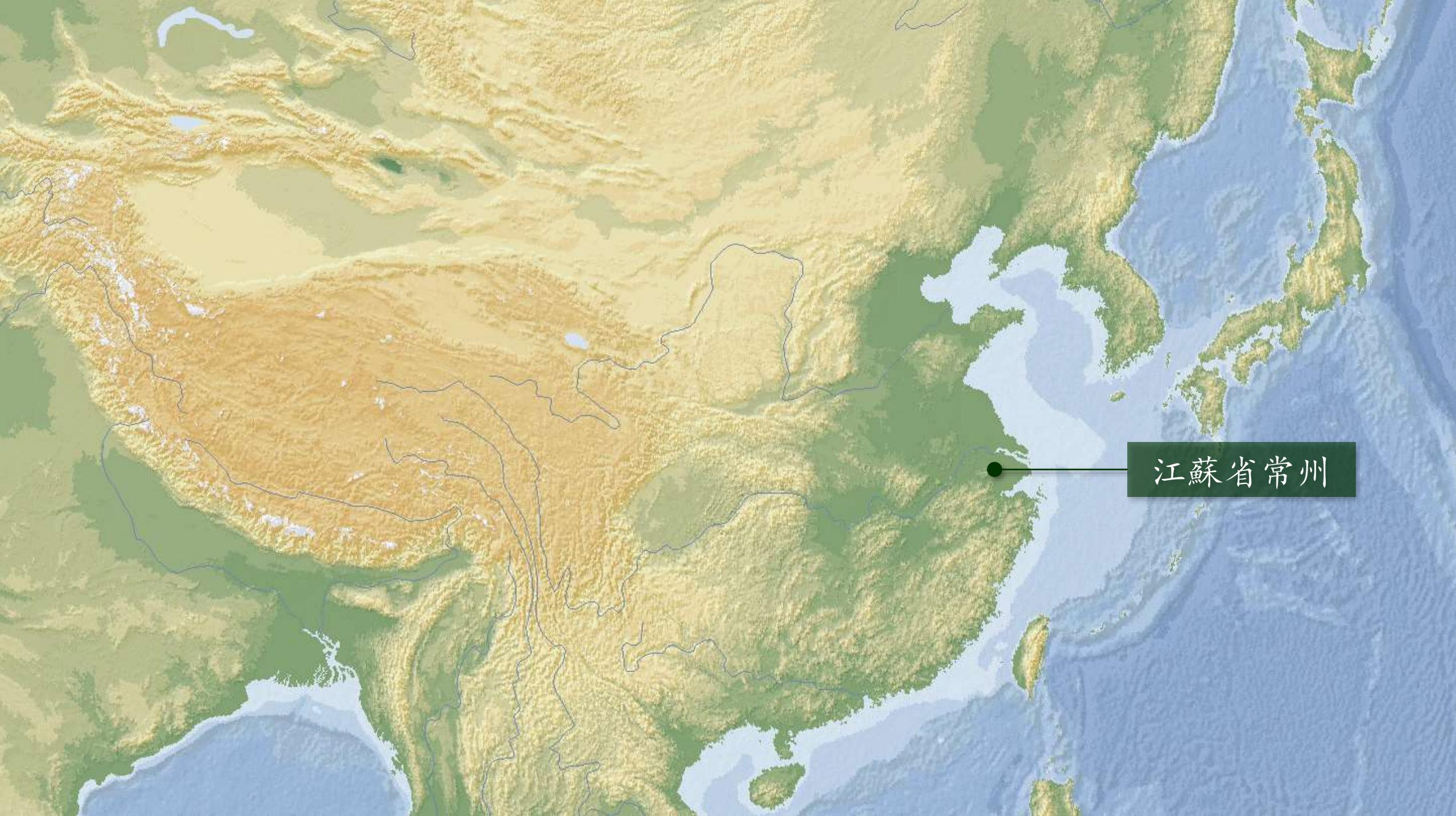
『咸淳毗陵志』は、南宋の咸淳四年(西暦一二六八年)に常州知府の史能之が編纂した地方志。三十巻。現存する常州の地方志としては最古のもの。毗陵は常州の古名。宋代には晋陵、武進、無錫、宜興の四県を管轄していた。

咸淳毗陵志

常州市地方志辦公室編  
廣陵書社出版

咸淳毗陵志

咸淳毗陵志



江蘇省常州

## 化蝶モチーフの誕生

(南宋) 史能之『咸淳毗陵志』卷二七

祝陵は善権山にある。岩山の前に  
「祝英台が読書した処 碧鮮庵」と  
いう字を刻んだ巨石がある。

昔の詩にいう。

蝴蝶は満園に飛ぶを見ず

碧鮮は空しく読書壇あるのみ

俗伝によれば、祝英台はもともと  
女性で、幼いころ梁山伯とともに学  
び、のち蝶に生まれ変わったという。



## 化蝶モチーフの誕生

(南宋) 史能之『咸淳毗陵志』卷二七

荒唐無稽な話だが、寺の由来記にも齊の武帝が英台の旧所有地を贖って建立したとあるから、人や建物は実在したようである。

恐らく女性ではなかったのだろう。



## 江南の風物伝説

(南宋) 周密『癸辛雜識前集・化蝶』

### 〔解説〕

この世に思いを残して亡くなった人は、蝶に生まれ変わって帰ってくる。中国の江南地方では、そんな

「化蝶」伝説が伝えられていた。

南宋のが南宋王朝滅亡期の逸事を記した周密の『癸辛雜識』という筆記には、この伝説が記録されている。



# 江南の風物伝説

(南宋) 周密『癸辛雜識前集・化蝶』

楊昊、字は明之、江家の美しい少女を妻に迎え、連年子供に恵まれた。明之が客死した翌日、掌ほど大きさの蝶が江氏の傍を飛び回り、丸一日経ってようやく去っていった。訃報が届き、一族が集まって泣いていると、その蝶が再び江氏の周りを飛び回り、食事のときも寝るときも離れようとはしなかった。

恐らくは明之が若い妻と幼い子供たちと別れるのが偲びがたくて、蝶に姿を変えて帰ってきたのだらう。

夜來總所有大酒樓大銀器數百兩總所移文制司立限構捕嚴甚少違則身受重譴矣束手無措用是冒急求策耳少年微笑曰若然則關係甚大恐妖異所爲非人力能措手惟有所哀所事香火或可徵神物之庇耳湯晒其醉中語荒誕不復力邀同還抵家謾用其說禱之聖堂則所失器物皆粲然橫陳供床下矣湯始大驚以爲神方欲出謝之則其人已去矣盜亦有道其是之謂乎

## 化蝶

楊昊字明之娶江氏少艾連歲得子明之客死之明日有蝴蝶大如掌徊翔於江氏傍竟日乃去及聞訃聚族而哭其蝶復來繞江氏飲食起居不置也蓋明之未能割戀於少妻稚子故化蝶以歸爾

李商嘗作詩記之曰碧梧翠竹名家兒今作栩栩  
蝴蝶飛山川阻深網羅密君從何處化飛歸李鐸  
諫議知鳳翔既卒有蝴蝶萬數自殯所以至府宇  
蔽暎無下足處官府弔奠接武不相辨揮之不聞  
踐踏成泥其大者如扇踰月方散楊大芳娶謝氏  
謝亡未殮有蝶大如扇其色紫褐翩翩目帳中徘徊  
飛集窻戶間終日乃去始信明之之事不誣余  
嘗作詩悼之云帳中蝶化真成夢鏡裏鸞孤枉斷  
腸吹徹玉簫人不見世間難覓返魂香亦紀實也

玉環

楊太真小字玉環故今古詩人多以阿環稱之按  
李義山云十八年來墮世間瑤池歸夢碧桃開如

江南の風物伝説

(南宋) 周密『癸辛雜識前集・化蝶』

楊大芳は謝氏を娶ったが、謝夫人  
が亡くなり、まだ遺体を棺に収めて  
いないとき、扇のように大きな蝶で、  
紫がかった褐色をしたのが、ひらひ  
らと帳の中を飛び回り、窓の間に集  
まっていたが、丸一日経ってようや  
く去っていった。

私はこれを聞いて、はじめて明之  
のことが嘘ではないと信じるようにな  
った。



梁山伯の化身とされる玉帯鳳蝶（シロオビアゲハ *Papilio polytes*）



祝英台の化身とされる美鳳蝶（ナガサキアゲハ *Papilio memnon*)

梁祝故事の演劇演芸化と  
還魂・投胎モチーフの誕生

## 民間伝承から演劇へ

### 〔解説〕

モンゴルに支配された元代、中国は演劇の黄金時代を迎えた。

元王朝は、一三一三年まで科挙を停止したため、旧金領の華北では百年あまり、旧南宋領の華南では三〇年あまり、科挙による仕官の途が閉ざされた。

漢民族の知識人たちは、新興の演劇に生活の糧を求め、元雑劇と総称される多くの名作を誕生させた。



山西省洪洞県広勝寺元雑劇壁画(1324年)



山西省広勝寺元代雜劇壁画 (NHKスペシャル「故宮」第10集より)

0	後漢 25-220		
100			
200	魏 220-265	蜀 221-263	呉 222-280
300	晋 265-316		
400	五胡十六国時代	東晋 317-420	
500	北朝 439-589	南朝 420-589	
600	隋 581-619		
700	唐 618-907		
800	五代十国 907-960		
900	遼	北宋 960-1127	
1000			
1100	金 1115-1234	南宋 1127-1279	
1200	元 1271-1368		
1300			
1400	明 1368-1644		
1500			
1600			
1700			
1800	清 1616-1912		
1900	中華民國 1912-1949		
2000	中華人民共和國 1949-		



白樺「元雜劇祝英台死嫁梁山伯」(佚)→梁祝故事の演劇化

0	後漢 25-220		
100			
200	魏 220-265	蜀 221-263	呉 222-280
300	晋 265-316		
400	五胡十六国時代	東晋 317-420	
500	北朝 439-589	南朝 420-589	
600	隋 581-619		
700			
800	唐 618-907		
900	五代十国 907-960		
1000	遼	北宋 960-1127	
1100			
1200	金 1115-1234	南宋 1127-1279	
1300	元 1271-1368		
1400	明 1368-1644		
1500			
1600			
1700			
1800	清 1616-1912		
1900	中華民國 1912-1949		
2000	中華人民共和國 1949-		



朱少齋「明伝奇還魂記」(佚) → 還魂モチーフの登場



0	後漢 25-220		
100			
200	魏 220-265	蜀 221-263	呉 222-280
300	晋 265-316		
400	五胡十六国時代		東晋 317-420
500	北朝 439-589		南朝 420-589
600	隋 581-619		
700			
800	唐 618-907		
900	五代十国 907-960		
1000	遼	北宋 960-1127	
1100			
1200	金 1115-1234	南宋 1127-1279	
1300	元 1271-1368		
1400			
1500	明 1368-1644		
1600			
1700	清 1616-1912		
1800			
1900			
2000	中華民国 1912-1949		中華人民共和国 1949-



長編叙事民謡「梁山伯歌」→投胎モチーフの登場

# 還魂（投胎）モチーフの誕生

清初浙江忠和堂刻本『梁山伯歌』

〔解説〕

『梁山伯歌』は、清代の初め（西暦一六六〇ごろ）、浙江の忠和堂が出版した長編叙事民謡。

一度は死んだ梁山伯と祝英台が、閻魔王の裁きにより、別の家に生まれ変わり、幸せな夫婦になるという「投胎」モチーフが取り入れられている。

敕封梁聖君山伯之墓

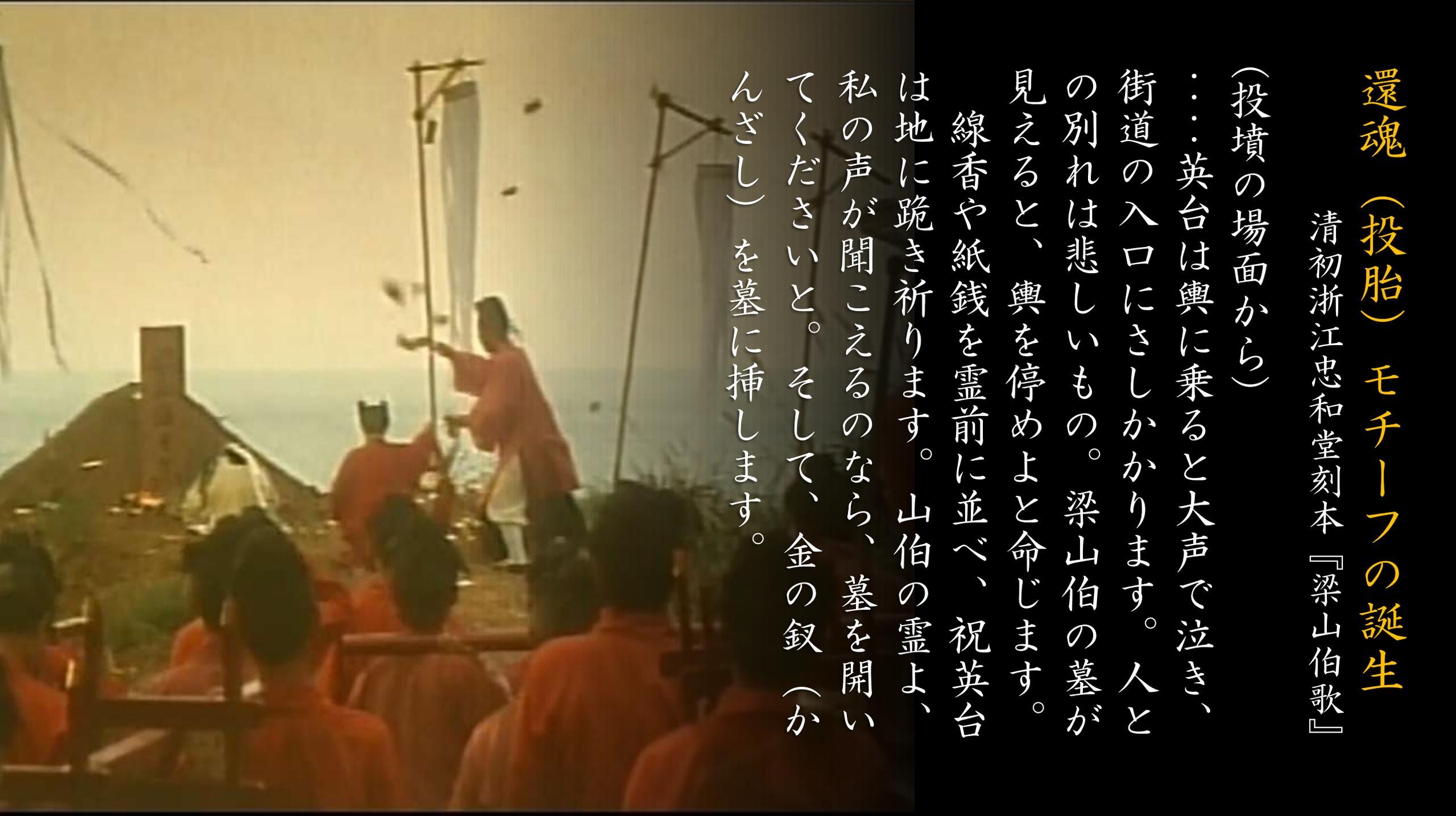
# 還魂（投胎）モチーフの誕生

清初浙江忠和堂刻本『梁山伯歌』

（投墳の場面から）

……英台は輿に乗ると大声で泣き、街道の入口にさしかかります。人との別れは悲しいもの。梁山伯の墓が見えると、輿を止めよと命じます。

線香や紙銭を靈前に並べ、祝英台は地に跪き祈ります。山伯の靈よ、私の声が聞こえるのなら、墓を開いてくださいと。そして、金の釵（かんざし）を墓に挿します。



# 還魂（投胎）モチーフの誕生

清初浙江忠和堂刻本『梁山伯歌』

すると一天にわかには掻き曇り、月日の明かりも見えぬほど。突然、三尺の穴が開き、英台はその中に身を投げます。残ったのは一枚のもすそだけ。

破れたもすそは蝶となり、二匹仲良く空のかなたへ。なんと不思議な出来事でしょう。

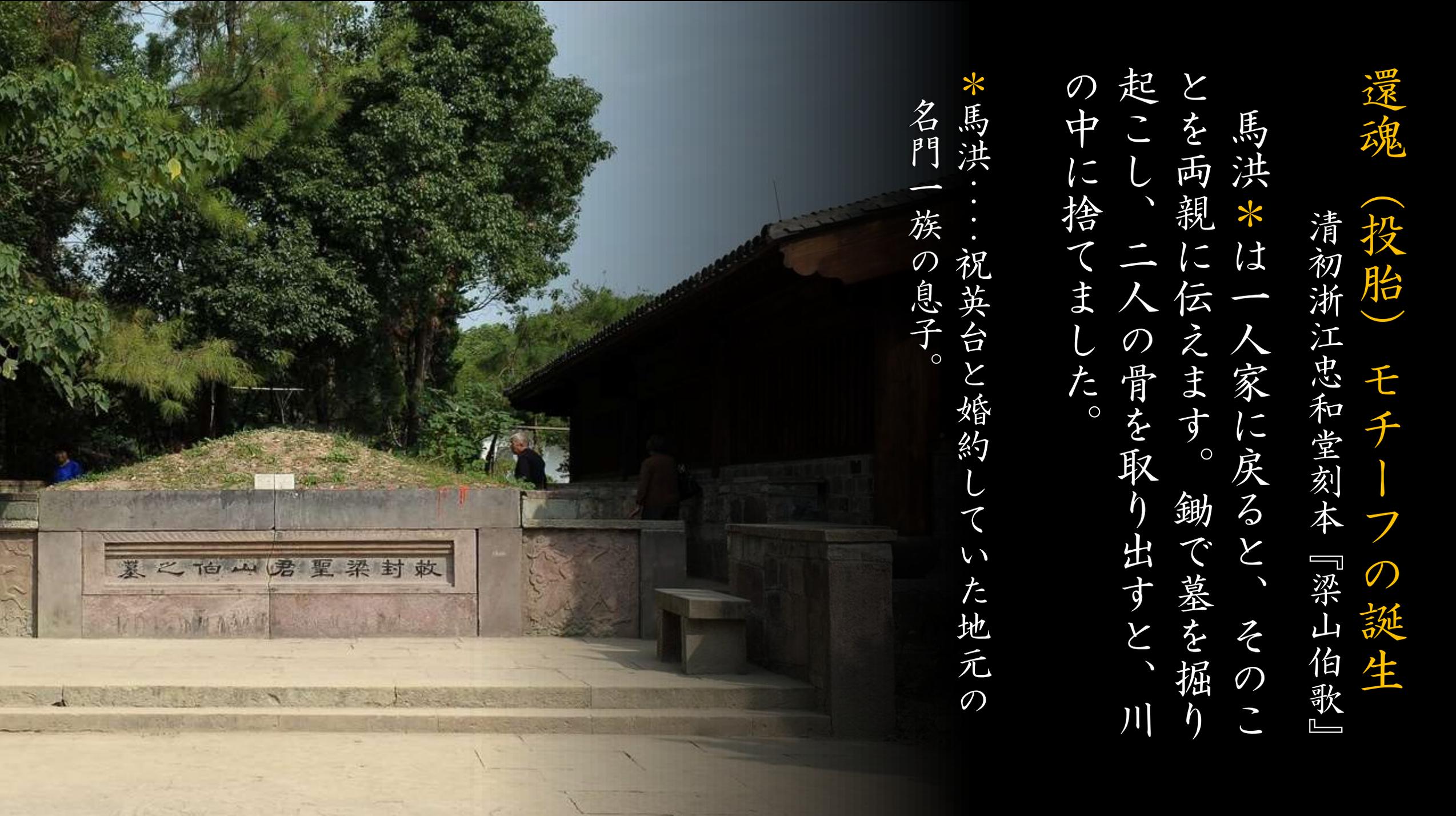
敕封梁聖君山伯之墓

# 還魂（投胎）モチーフの誕生

清初浙江忠和堂刻本『梁山伯歌』

馬洪\*は一人家に戻ると、そのことを両親に伝えます。鋤で墓を掘り起こし、二人の骨を取り出すと、川の中に捨てました。

\*馬洪……祝英台と婚約していた地元の名門一族の息子。



# 還魂（投胎）モチーフの誕生

清初浙江忠和堂刻本『梁山伯歌』

馬洪は線香や紙銭を用意し、東岳廟で燃やします。広南の線香と供え物は、どれも目新しいものばかり。そして地に跪き祈ります。

馬洪は拝礼して線香を上げ、訴えます。

「東岳大帝さま、どうかお聞きください。私の妻の名は祝英台。吉日を選んで嫁に迎えに行った帰り、とんでもない事件が起こりました」



(南宋)陸信忠「十王圖」泰山王図(東岳大帝)

## 還魂（投胎） モチーフの誕生

清初浙江忠和堂刻本『梁山伯歌』

「英台は杭州で勉強していたころ、梁山伯と兄弟の契りを結びました。梁山伯が亡くなり、街道の入り口に埋葬されましたが、突然怪しげな風が巻き起こり、私の妻を連れ去ってしまったのです。」

この世で起こった事件を解決するため、お力をお貸しください。もし私の妻を取り戻すことができれば、廟を建て直し、ご神体に金箔に貼り、高く万年灯を掲げましょう」

## 還魂（投胎） モチーフの誕生

清初浙江忠和堂刻本『梁山伯歌』

馬洪は神に拝礼して立ち上がると、急いで紙銭を燃やします。東岳大帝は玉座に坐り、前に並んだ鬼たちに、事件はないかとたずねます。

訴訟の小役人が報告します。

「王様、お聞きください。人間の世界の馬洪と申す者が訴えを起こしております。妻の英台を奪われたので、帰してほしいと申すのです」

# 還魂（投胎）モチーフの誕生

清初浙江忠和堂刻本『梁山伯歌』

訴えを聞いた東岳大帝は大慌て。これは何とも不思議な事件。急いで牛頭を呼ぶと「わしは閻魔王の役所に行ってくる。閻魔帳からは誰も逃れることはできぬからな」ふわふわと空を飛んで行くと、五殿では閻魔王がお出迎え。銀安殿で挨拶をすると、主客に分かれ、人間界で起こった事件について話し合います。



東岳大帝 庚辰暮年全社十月大吉戴敦邦印之刻仙道人物画集

# 還魂（投胎）モチーフの誕生

清初浙江忠和堂刻本『梁山伯歌』

「馬洪の妻・祝英台は、晴れの良き日に輿入れをしようとしたが、梁山伯の墓の前を通ったとき、悪霊に取り付かれ、墓の中に埋められてしまいました。死者が人の妻を奪うとはもつてのほか。閻魔大王に申し上げる。人の妻を奪った梁と申す者は、いまは捕らえて牢の中。閻魔帳に誤りはないはず。ご覧になれば、すぐにわかります」



(南宋)金処士「十王図」閻魔大王

# 還魂（投胎）モチーフの誕生

清初浙江忠和堂刻本『梁山伯歌』

ところが閻魔帳を開いてみると、梁山伯と祝英台は北極星と北斗七星の生まれ変わり。前世からの縁は百年も続くはず。馬洪の訴えは嘘八百。そこで晴れの良き日を選び、（梁山伯に）祝英台を娶らせました。

閻魔大王は怒り心頭。馬洪を捕えると、御殿の前に跪かせ、叱りつけます。「人の妻を奪うとは不届き千万。正直に白状すれば罪も少しは軽くしてやるぞ」



(南宋)金処士「十王図」閻魔大王

# 還魂（投胎）モチーフの誕生

清初浙江忠和堂刻本『梁山伯歌』

（馬洪は訴えます） 「閻魔大王様、どうかお聞きください。裁判は公正に行ってください。私と祝英台は仲人を立てて結納を交わし、父母の許しを得て夫婦になりました。礼教の教えにかなったものです。」

（閻魔大王は） 「馬洪よ、強弁せずともよい」と言うと、馬洪の髪を解いて濡らし、梁山伯と祝英台の二人に当てましたが、身体にはまったくつきません。」



(南宋)金処士「十王図」閻魔大王

# 還魂（投胎）モチーフの誕生

清初浙江忠和堂刻本『梁山伯歌』

（閻魔大王は命じます）「牛頭馬頭をここに呼べ。馬洪を冥土に連れて行き、山の前後を通らせて、十八の地獄を巡らせよ。閻魔帳に情は無用じゃ」

続いて安産の女神をお招きし、（梁山伯と祝英台の）二人を故郷に帰らせます。梁山伯は張家、祝英台は李家に生まれ変わり、二世にわたる因縁で、二人は再び結ばれます。



(南宋)金処士「十王図」閻魔大王

# 還魂（投胎）モチーフの誕生

清初浙江忠和堂刻本『梁山伯歌』

張家の主人が堂屋に坐っていると、突然、部屋を満たす赤い光。産屋で生まれたのは立派な男の子。容貌も立派なら頭も良さそう。一家そろって大喜び。

李家の奥さまが見た不思議な夢。一輪の花が門の庭に挿されました。果たして十月十日で無事出産。生まれたお嬢さまは、刺繍などお手の物。



# 還魂（投胎）モチーフの誕生

清初浙江忠和堂刻本『梁山伯歌』

月下老人がやって来ると、両家は喜んで仲人を迎え、礼に従って生年月日を記した紙を渡します。婿殿は聡明で、嫁御は器量よし。両家にとってには天の恵み。

（婿殿は）次々と科挙の試験に合格し、順風満帆。一度の受験で本試験に合格し、高い官位を与えられて、故郷に錦を飾り、馬の背に乗せられて町中を練り歩きました。（完）



## 馬街書会

### 〔解説〕

「梁山伯歌」のような語り物は、いまも中国で盛んにおこなわれている。

河南省宝豊県の馬街村では、毎年旧暦の一月十三日から十五日まで、こうした語り物の芸人が各地から集まり、大演芸会が開催されている。

馬街書会と呼ばれるこの催しは、二〇〇六年、中国の非物質文化遺産（無形文化財）に登録された。

河南省宝豊県馬街村



A winter landscape with snow, trees, and a barn, overlaid with the title '地球に好奇心'. The title is written in a stylized, blue, bubbly font with a white outline. The background shows a snow-covered field with a line of bare trees and a small brown barn in the distance under a pale sky.

# 地球に好奇心

馬街書会(NHK「中国 福をよぶ大演芸会～大衆芸のふるさと馬街」より)



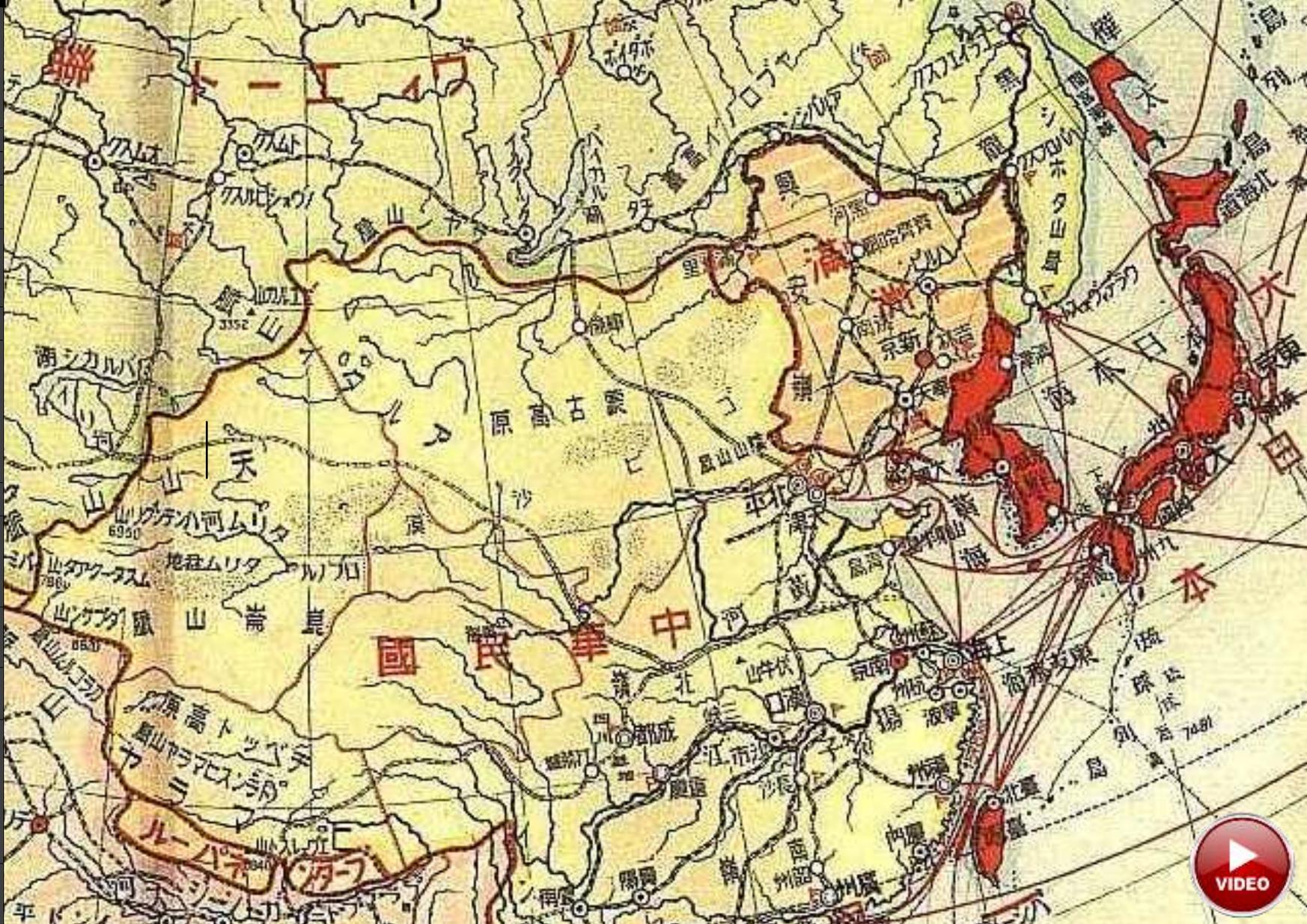
馬街書会(NHK「中国 福をよぶ大演芸会～大衆芸のふるさと馬街」より)

0	後漢 25-220		
100			
200	魏 220-265	蜀 221-263	呉 222-280
300	晋 265-316		
400	五胡十六国時代		東晋 317-420
500	北朝 439-589	南朝 420-589	
600	隋 581-619		
700			
800	唐 618-907		
900	五代十国 907-960		
1000	遼	北宋 960-1127	
1100			
1200	金 1115-1234	南宋 1127-1279	
1300	元 1271-1368		
1400			
1500	明 1368-1644		
1600			
1700	清 1616-1912		
1800			
1900			
2000	中華民国 1912-1949	中華人民共和国 1949-	



長編叙事民謡「梁山伯歌」→投胎モチーフの登場

0	
100	後漢 25-220
200	
300	魏 220-265   蜀 221-263   吳 222-280
400	晋 265-316
500	五胡十六国時代   東晋 317-420
600	北朝 439-589   南朝 420-589
700	隋 581-619
800	唐 618-907
900	五代十国 907-960
1000	遼   北宋 960-1127
1100	
1200	金 1115-1234   南宋 1127-1279
1300	元 1271-1368
1400	
1500	明 1368-1644
1600	
1700	
1800	清 1616-1912
1900	
2000	中華民國 1912-1949 中華人民共和國 1949-



越劇「梁山伯と祝英台」→投胎モチーフから原話への回帰

越劇「梁山伯と祝英台」 (映画 舞台姐妹より)

# 越劇「梁山伯と祝英台」の変遷

丁一「越劇梁祝的由来和发展」

(嵊県政協文史資料委員会編『越劇溯源』

浙江文芸出版社一九九二年)

当時（越劇『梁山伯と祝英台』が上海で上演されるようになった一九一九年ごろ——引用者）、上海で上演した『梁祝』は全部で四十場あった。各劇団は上演の際に場数を増減したため、上、中、下の三部構成で上演する劇団もあれば、上、下の二部構成とするもの、さらには「回憶十八」から「送兄盟誓」までの五場だけを上演する劇団もあった。場の題名もそれぞれ異なるが、だいたいは次のとおりである。



# 越劇「梁山伯と祝英台」の變遷

丁一「越劇梁祝的由來和發展」

（嵊縣政協文史資料委員會編『越劇溯源』

浙江文芸出版社一九九二年）

游園思詭 喬裝卜卦 三嫂進讒 立誓埋綾  
山伯別父 草橋結拜 夜宿換魂 梁祝拜師  
設墻共床 英台受罰 同窓共詭 游園露紅  
收信思梁 英台抗婚 十八相送 三嫂施計  
驗綾挖目 梁祝夢會 文才嫖院 祝馬廟遇  
遣媒說親 英台驚婚 山伯魂歸 山伯思祝  
拜師下山 回憶十八 山伯觀景 父女相抗  
樓台相會 送兄盟誓 病回思祝 英台贈物  
山伯臨終 四九報喪 英台哭靈 文才迎親  
禱墓碰碑 地府陰審 文才還魂 娶親團圓



# 越劇「梁山伯と祝英台」の変遷

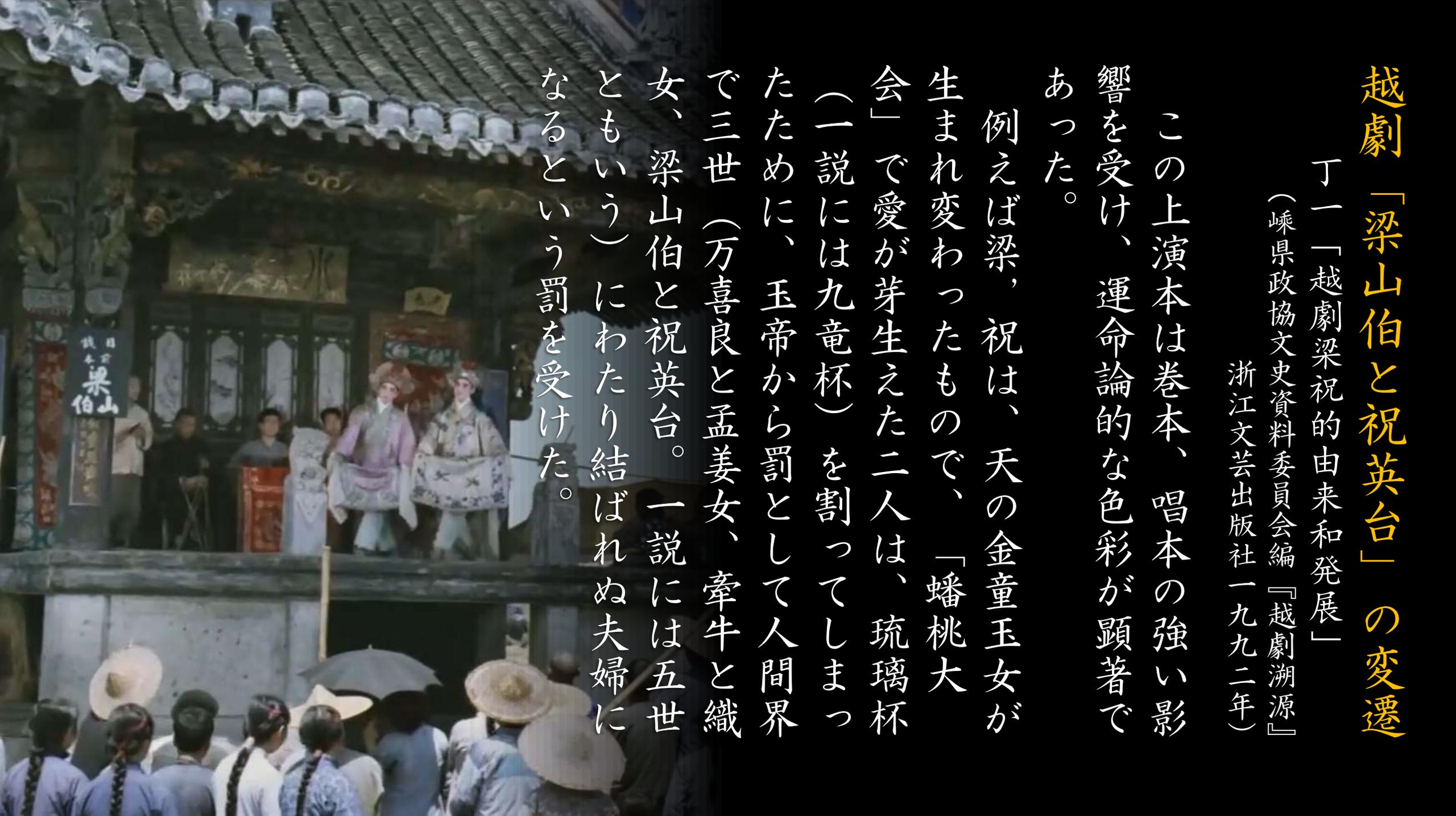
丁一「越劇梁祝の由来と発展」

(嵊県政協文史資料委員会編『越劇溯源』)

浙江文艺出版社一九九二年)

この上演本は卷本、唱本の強い影響を受け、運命論的な色彩が顕著であった。

例えば梁、祝は、天の金童玉女が生まれ変わったもので、「蟠桃大会」で愛が芽生えた二人は、琉璃杯（一説には九竜杯）を割ってしまっただために、玉帝から罰として人間界で三世（万喜良と孟姜女、牽牛と織女、梁山伯と祝英台。一説には五世ともいう）にわたり結ばれぬ夫婦になるという罰を受けた。



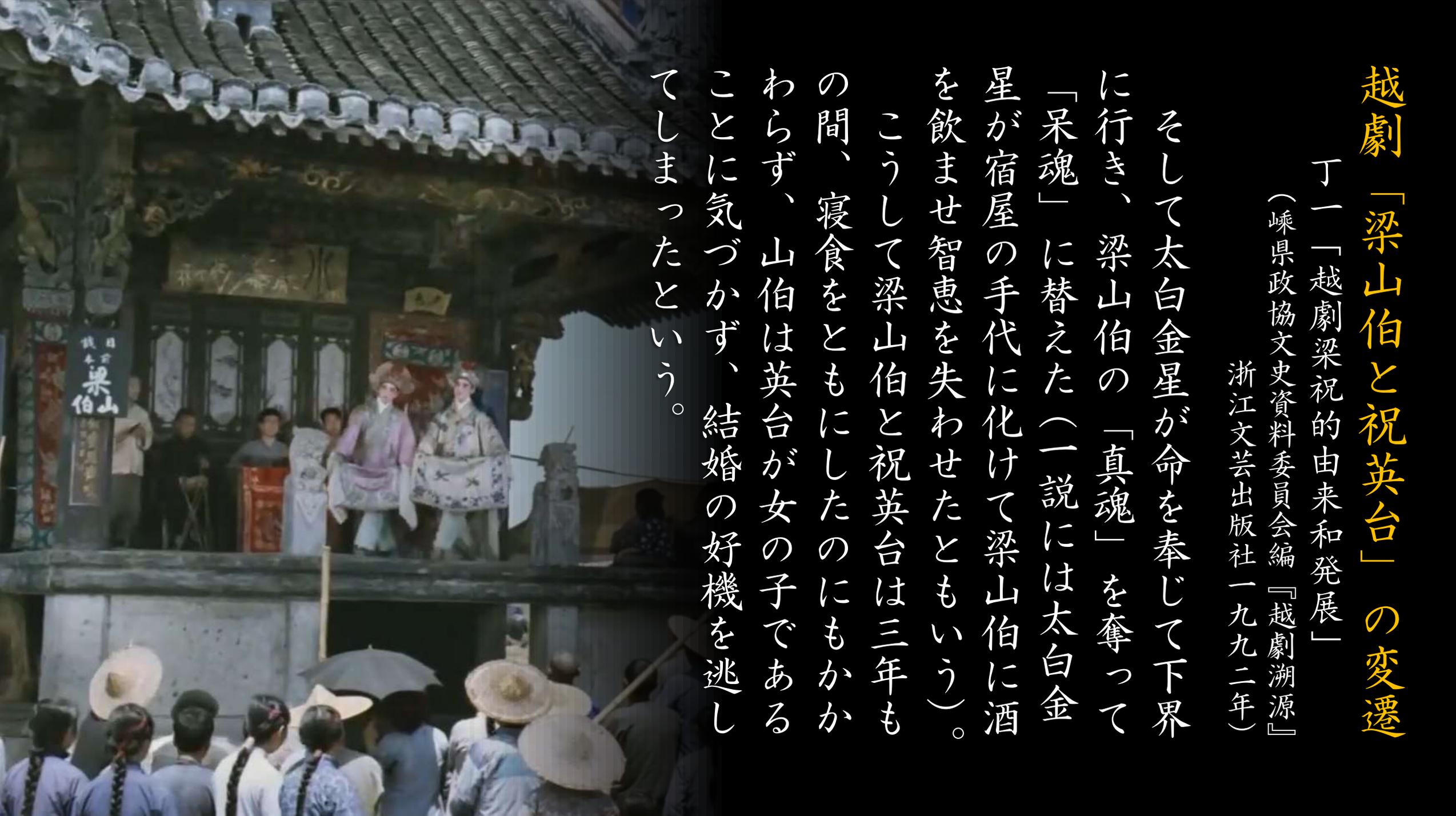
# 越劇「梁山伯と祝英台」の変遷

丁一「越劇梁祝的由来和发展」

(嵊県政協文史資料委員会編『越劇溯源』)

浙江文艺出版社一九九二年)

そして太白金星が命を奉じて下界に行き、梁山伯の「真魂」を奪って「呆魂」に替えた(一説には太白金星が宿屋の手代に化けて梁山伯に酒を飲ませ智恵を失わせたともいう)。こうして梁山伯と祝英台は三年もの間、寢食をともにしたのにもかかわらず、山伯は英台が女の子であることに気づかず、結婚の好機を逃してしまったという。



# 越劇「梁山伯と祝英台」の變遷

丁一「越劇梁祝的由来和發展」

（嵊縣政協文史資料委員會編『越劇溯源』

浙江文芸出版社一九九二年）

游園思詭 喬裝卜卦 三嫂進讒 立誓埋綾  
山伯別父 草橋結拜 夜宿換魂 梁祝拜師  
設墻共床 英台受罰 同窓共詭 游園露紅  
收信思梁 英台抗婚 十八相送 三嫂施計  
驗綾挖目 梁祝夢會 文才嫖院 祝馬廟遇  
遣媒說親 英台驚婚 山伯魂歸 山伯思祝  
拜師下山 回憶十八 山伯觀景 父女相抗  
樓台相會 送兄盟誓 病回思祝 英台贈物  
山伯臨終 四九報喪 英台哭靈 文才迎親  
禱墓碰碑 地府陰審 文才還魂 娶親團圓



# 越劇「梁山伯と祝英台」の変遷

丁一「越劇梁祝的由来和发展」

(嵊県政協文史資料委員会編『越劇溯源』)

浙江文芸出版社一九九二年)

また墓が崩れた後、祝英台はその中に身を投げるが、馬文才も祝英台の服につかまり一緒に入ってしまった。こうして梁、祝、馬の三人は墓に入った後、梁山伯は馬文才が妻を奪ったと、馬文才は梁山伯に非があると、地獄を巡りながら訴え続ける。一殿の秦広殿から二殿の楚江殿、三殿の牢帝殿、そして四殿、五殿と訴え回ったが、けっきょく決着がつかず、五殿の閻羅殿に至る。



# 越劇「梁山伯と祝英台」の變遷

丁一「越劇梁祝的由来和發展」

（嵊縣政協文史資料委員會編『越劇溯源』

浙江文芸出版社一九九二年）

游園思詭 喬裝卜卦 三嫂進讒 立誓埋綾  
山伯別父 草橋結拜 夜宿換魂 梁祝拜師  
設墻共床 英台受罰 同窓共詭 游園露紅  
收信思梁 英台抗婚 十八相送 三嫂施計  
驗綾挖目 梁祝夢會 文才嫖院 祝馬廟遇  
遣媒說親 英台驚婚 山伯魂歸 山伯思祝  
拜師下山 回憶十八 山伯觀景 父女相抗  
樓台相會 送兄盟誓 病回思祝 英台贈物  
山伯臨終 四九報喪 英台哭靈 文才迎親  
禱墓碰碑 地府陰審 文才還魂 娶親團圓



（南宋）陸信忠「十王圖」閻羅王圖

# 越劇「梁山伯と祝英台」の変遷

丁一「越劇梁祝的由来和发展」

（嵊県政協文史資料委員会編『越劇溯源』

浙江文芸出版社一九九二年）

閻魔王が生死簿を調べた結果、  
ようやく真相が明らかとなる。

梁祝は、金童玉女が罰として下界  
に追放されたもので、これは前世か  
ら定められた運命であった。

馬文才も二人の間を引き裂くため  
に送られた小星に過ぎず、祝英台と  
はもともと縁もゆかりもない。むし  
ろ蘭花院という遊郭の李鳳奴と縁が  
あるから、寿命がまだ尽きていない  
以上、人間界にもどって李と結婚す  
ればよいということになる。



（南宋）陸信忠「十王圖」閻羅王図

# 越劇「梁山伯と祝英台」の変遷

丁一「越劇梁祝的由来和发展」

（嵊県政協文史資料委員会編『越劇溯源』

浙江文芸出版社一九九二年）

馬文才はこの裁きを不服としたが、閻魔王は馬文才が李鳳奴と同衾したことがあるではないかと叱責し、小鬼に命じて馬文才を人間界に追い返し、梁、祝もはれて天界にもどる。



（南宋）陸信忠「十王圖」閻羅王図

# 越劇「梁山伯と祝英台」の変遷

丁一「越劇梁祝的由来和发展」

（嵊県政協文史資料委員会編『越劇溯源』

浙江文芸出版社一九九二年）

この『梁祝』の芝居が上演された後、かなりの反響があった。そこで芝居の値を吊り上げようと、続編をでっちあげて観客を呼び込もうとする者が現れた。

続編のあらすじは次のとおり。



# 越劇「梁山伯と祝英台」の変遷

丁一「越劇梁祝的由来和发展」

(嵊県政協文史資料委員会編『越劇溯源』

浙江文芸出版社一九九二年)

梁祝の死後、玉帝は呂洞賓と黎山老母の二仙に命じて、山を下りて梁祝の二人を救い出させた。

そして二人を山に連れていき、武芸を伝授させた。



# 越劇「梁山伯と祝英台」の変遷

丁一「越劇梁祝的由来和发展」

(嵊県政協文史資料委員会編『越劇溯源』

浙江文芸出版社一九九二年)

武科挙の年、梁山伯は師の命により、山を下りて科挙の試験に向かった。

途中、山東で寺廟の参拝にいかうとしていた路網の娘、路鳳鳴に出会った。山伯はその美しさに魅せられ、路の後を追った。そして自ら身を売り、路府の下男になると、ひそかに路鳳鳴と結婚の約束を交わした。



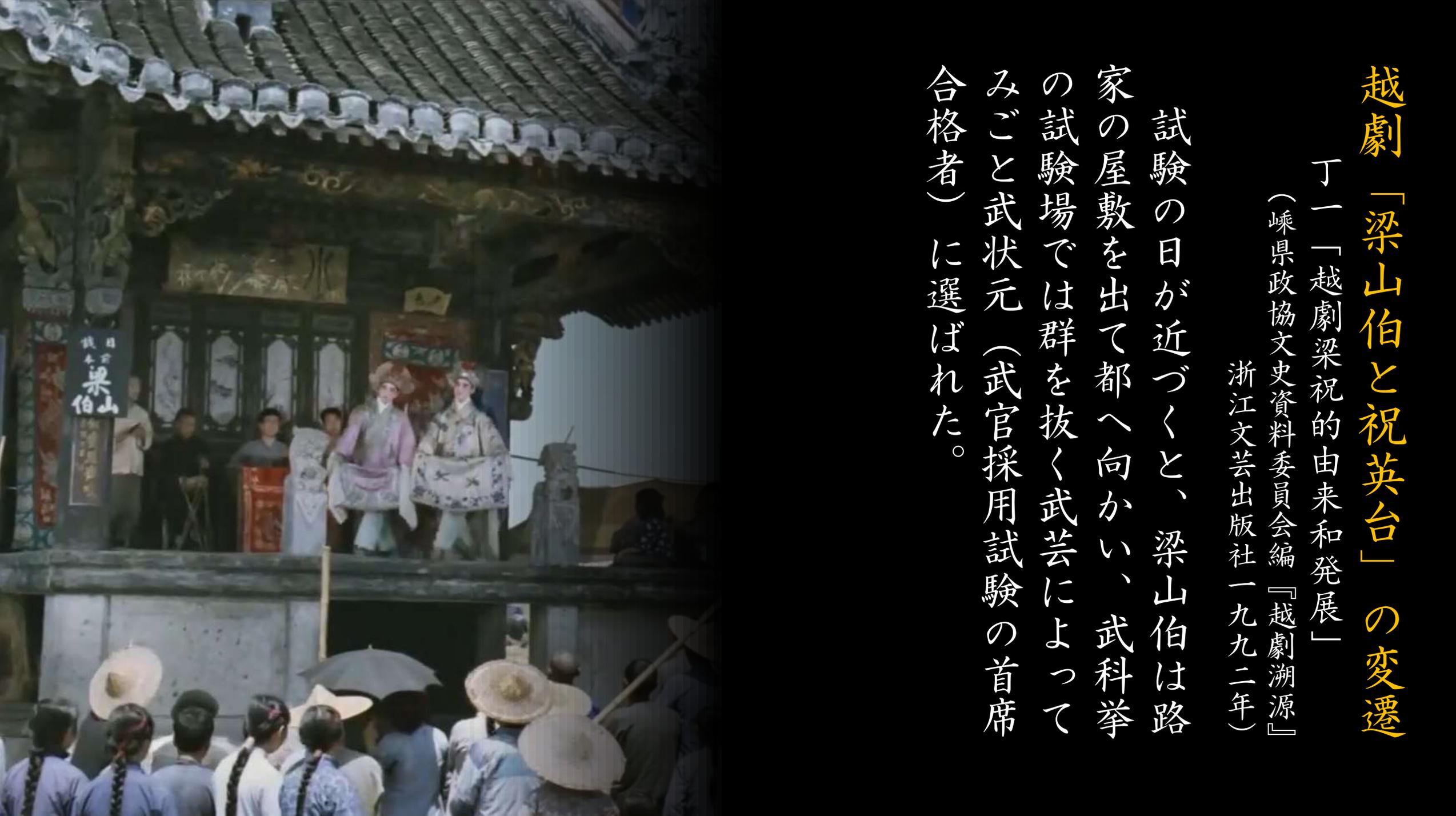
# 越劇「梁山伯と祝英台」の変遷

丁一「越劇梁祝的由来和发展」

（嵊県政協文史資料委員会編『越劇溯源』

浙江文芸出版社一九九二年）

試験の日が近づくと、梁山伯は路家の屋敷を出て都へ向かい、武科挙の試験場では群を抜く武芸によってみごと武状元（武官採用試験の首席合格者）に選ばれた。



# 越劇「梁山伯と祝英台」の変遷

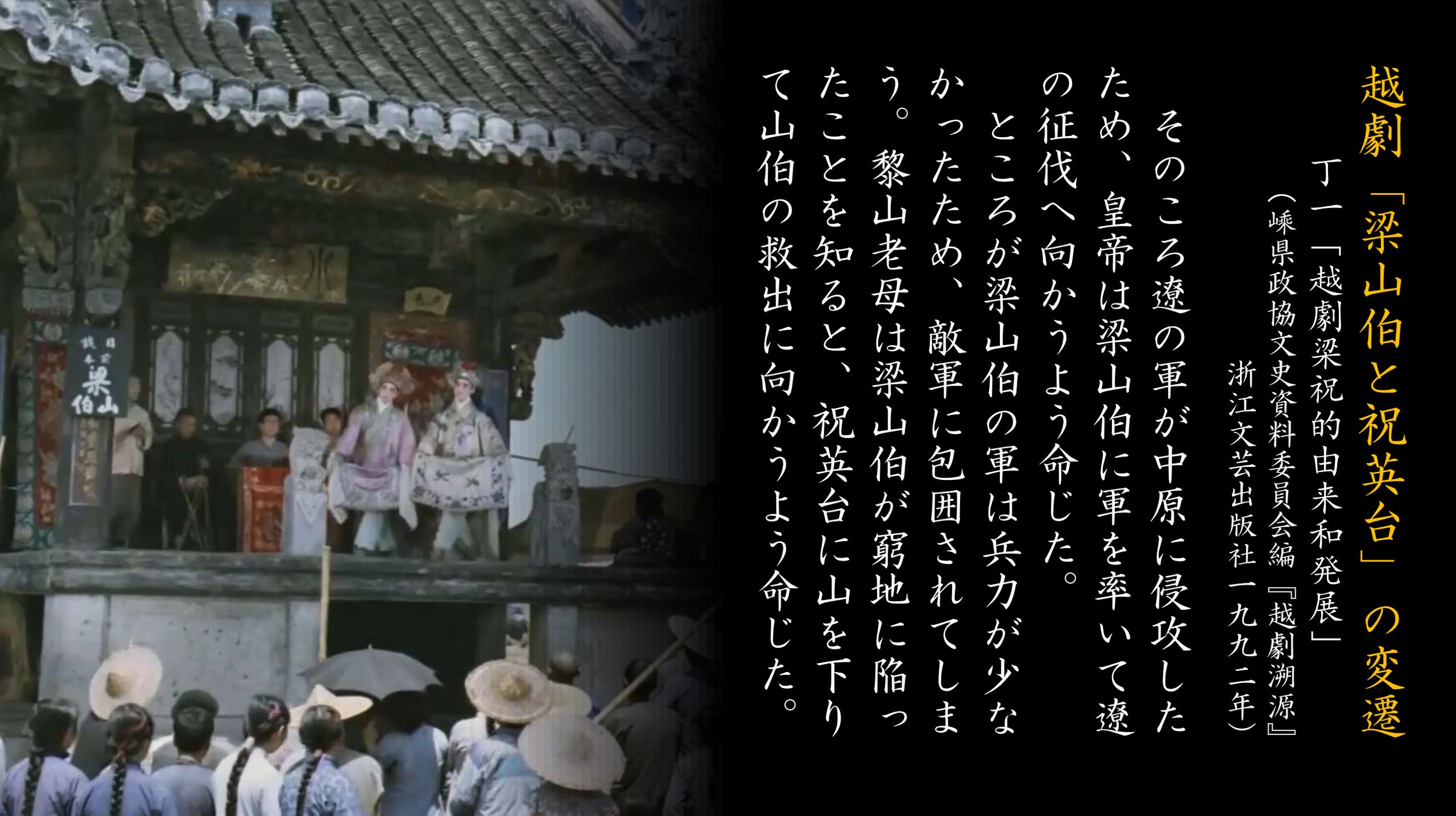
丁一「越劇梁祝的由来和发展」

(嵊県政協文史資料委員会編『越劇溯源』)

浙江文艺出版社一九九二年)

そのころ遼の軍が中原に侵攻したため、皇帝は梁山伯に軍を率いて遼の征伐へ向かうよう命じた。

ところが梁山伯の軍は兵力が少なかったため、敵軍に包囲されてしまった。黎山老母は梁山伯が窮地に陥ったことを知ると、祝英台に山を下りて山伯の救出に向かうよう命じた。



# 越劇「梁山伯と祝英台」の変遷

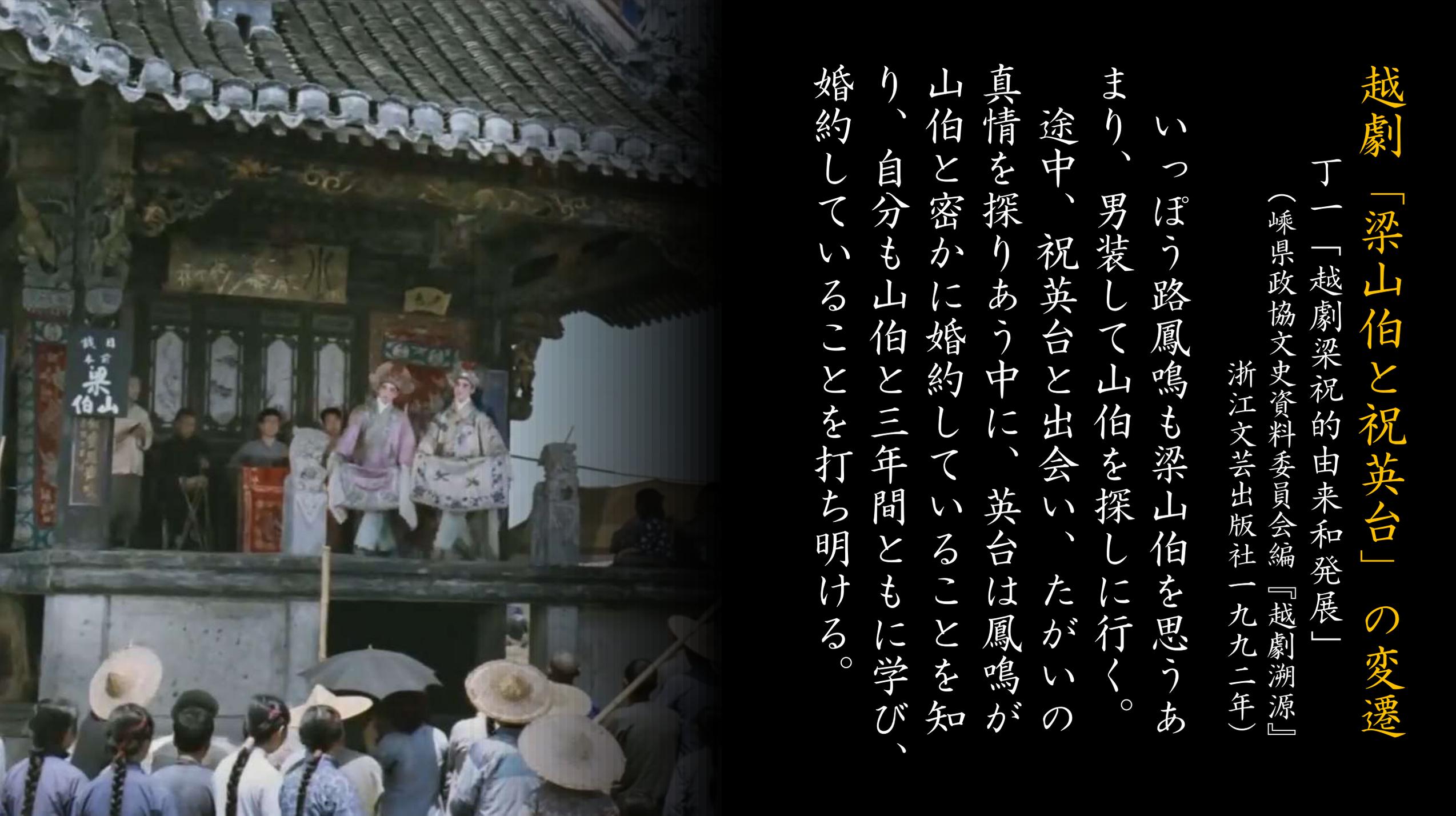
丁一「越劇梁祝的由来和发展」

(嵊県政協文史資料委員会編『越劇溯源』

浙江文芸出版社一九九二年)

いっぽう路鳳鳴も梁山伯を思うあまり、男装して山伯を探しに行く。

途中、祝英台と出会い、たがいの真情を探りあう中に、英台は鳳鳴が山伯と密かに婚約していることを知り、自分も山伯と三年間ともに学び、婚約していることを打ち明ける。



# 越劇「梁山伯と祝英台」の変遷

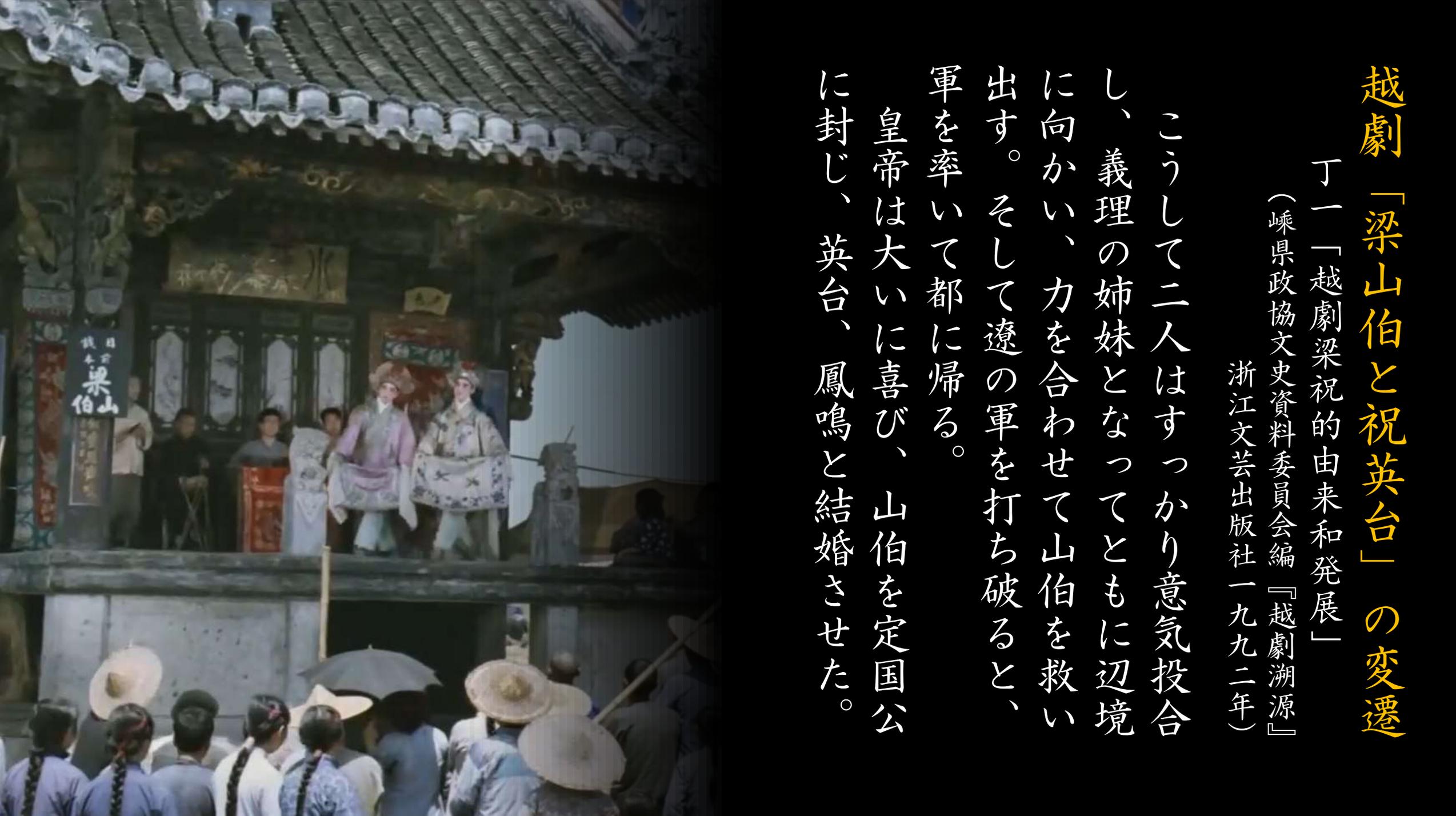
丁一「越劇梁祝的由来和发展」

(嵊県政協文史資料委員会編『越劇溯源』)

浙江文艺出版社一九九二年)

こうして二人はすっかり意気投合し、義理の姉妹となつてともに辺境に向かい、力を合わせて山伯を救い出す。そして遼の軍を打ち破ると、軍を率いて都に帰る。

皇帝は大いに喜び、山伯を定国公に封じ、英台、鳳鳴と結婚させた。



# 越劇「梁山伯と祝英台」の変遷

丁一「越劇梁祝的由来和发展」

(嵊県政協文史資料委員会編『越劇溯源』

浙江文芸出版社一九九二年)

芝居はこうしてハッピーエンドで終わった。しかし、こうした輪廻転生を吹聴するだけの杜撰なストーリーと、ある種の低俗な演出は、観客たちの心をとらえることはできなかつた。(完)



# 越劇「梁山伯と祝英台」の変遷

丁一「越劇梁祝の由来と発展」

(嵊県政協文史資料委員会編『越劇溯源』)

浙江文芸出版社一九九二年)

役者たちは舞台での実践の中で、観客の多くが梁山伯と祝英台が封建的な礼教制度に反対し、自由な結婚を主張する物語を最も好んでいることを知った。

そこで彼らは上演のいっぽうで、絶えず芝居に修正を加え、一九三九年に袁雪芬、馬樟花が大来劇場で『梁祝哀史』を共演したときには、旧本の中の低俗で卑猥な要素をほとんど取り除いた。



袁雪芬(左)と馬樟花(右)

# 越劇「梁山伯と祝英台」の変遷

丁一「越劇梁祝的由来和发展」

(嵊県政協文史資料委員会編『越劇溯源』

浙江文芸出版社一九九二年)

さらに一九四五年一月に雪声劇団が上海九星大劇院で『梁祝哀史』を上演したときは「十八相送」「回十八」「楼台会」「臨終」「吊孝」などの五場を中心に上演した。

同年の夏、袁雪芬、范瑞娟らが明星劇場で再びこの芝居を上演したとき、「三載同窗」の場を上、下二場に分け、現在の『梁山伯と祝英台』の上演台本の基礎ができあがったのである。

袁雪芬(左)と范瑞娟 (右)



映画「梁山伯と祝英台」 (上海電影制片廠1954年)

主演 范瑞娟(梁山伯)・袁雪芬(祝英台)

### 第三節 梁祝故事の現在



殉身不殉情一片烈心獨自遠

同聲兼同穴千秋義氣誰堪侶

梁祝墓(浙江省寧波)

## 縁結びの神となった梁祝

### 〔解説〕

浙江省寧波にある梁祝墓には、いまもこんな風習が残っている。

旧暦八月二十一日は、祝英台が梁山伯の後を追って死んだ命日。

このため毎年この時期になると、各地から梁山伯廟や梁祝墓を参拝にたくさんの人が集まる。参拝客の多くは若いカップルや女性。地元にはこんな言葉も伝わっている。

若要夫妻同到老、

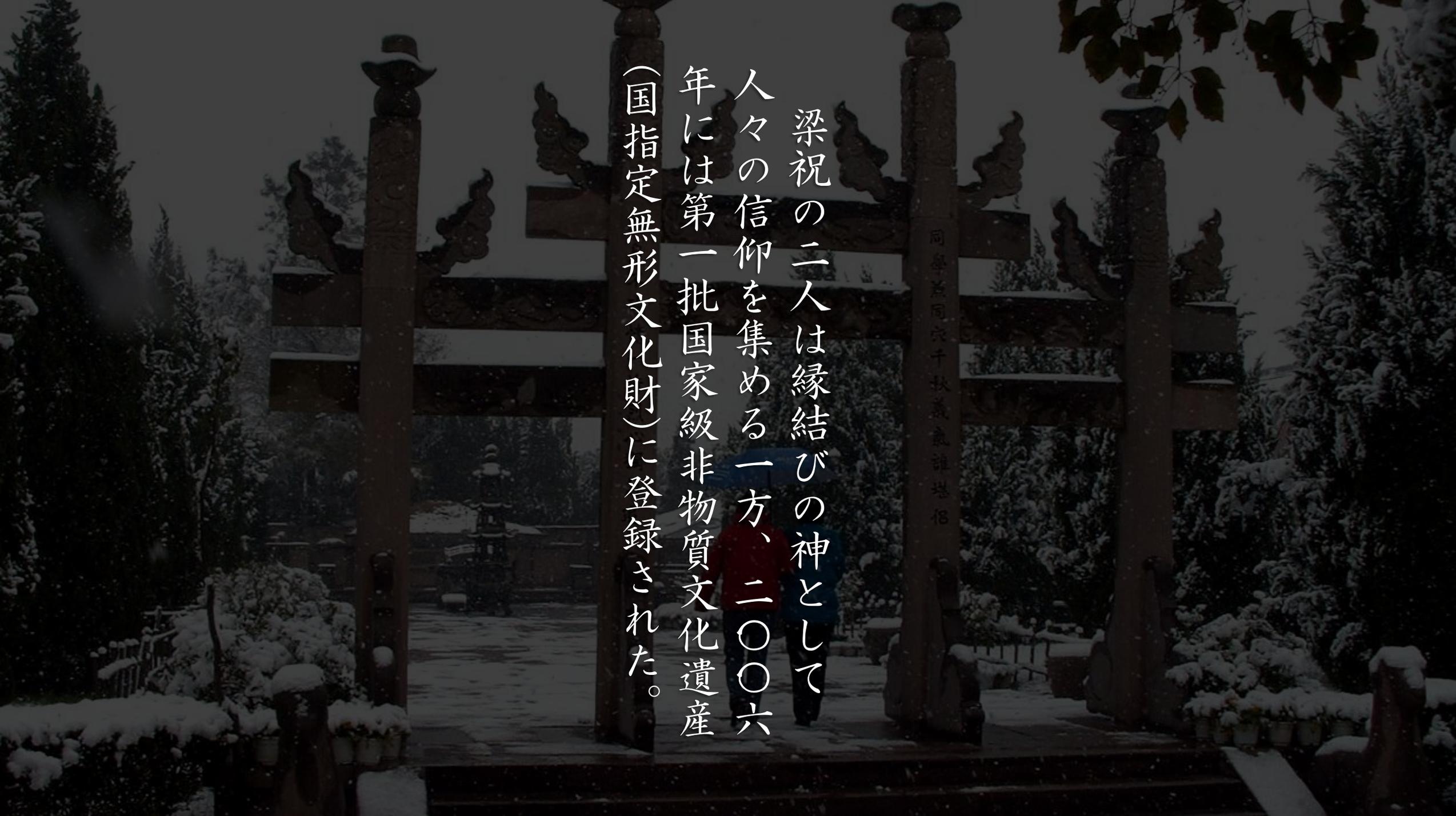
梁山伯、祝英台墳上繞一繞

夫婦がいつまでも

仲良く暮らしたいのなら

梁山伯と祝英台の墓の周りを

回ってきてごらん



梁祝の二人は縁結びの神として  
人々の信仰を集める一方、二〇〇六  
年には第一批国家級非物質文化遺産  
(国指定無形文化財)に登録された。



www.GOV.cn

# 中华人民共和国中央人民政府

The Central People's Government of the People's Republic of China



## 第一批国家级非物质文化遗产名录

(共计518项)

国务院 二〇〇六年五月二十日

### 一、民间文学 (共计31项)

序号	编号	项目名称	申报地区或单位
1	I-1	苗族古歌	贵州省台江县、黄平县
2	I-2	布洛陀	广西壮族自治区田阳县
3	I-3	遮帕麻和遮咪麻	云南省梁河县
4	I-4	牡帕密帕	云南省思茅市
5	I-5	刻道	贵州省施秉县
6	I-6	白蛇传传说	江苏省镇江市 浙江省杭州市
7	I-7	梁祝传说	浙江省宁波市、杭州市、上虞市 江苏省宜兴市 山东省济宁市 河南省汝南县

(以下略)

# 梁祝墳墓の所在地

甘肅省清水

四川省合川

河南省汝南

河北省河間

山東省嘉祥

山東省微山

江蘇省江都

江蘇省宜興

浙江省寧波

安徽省舒城



## まとめ

梁山伯と祝英台の伝説は、遅くとも八世紀初めに成立していたことが唐代の資料から確認されている。十世紀初めに書かれた梁聖君廟の由来記には、北宋時代の伝承が詳細に記録されている。

南宋時代になると、二人の悲劇に同情した人々は、化蝶モチーフを加えて、現在の物語を完成させた。明代には還魂モチーフ、清代に投胎モチーフなどファンタジーあるふれる続作が作られ、越劇も当初はこれらを採用していた。

梁祝の二人は縁結びの神として人々の信仰を集める一方、二〇〇六年には第一批国家級非物質文化遺産（国指定無形文化財）に登録された。